

就職

同窓生の声



この就職戦線

●学生サービスセンター次長

山田 直義

厳しい就職戦線、特に女子大生の就職難についての報道が、マスコミのトレンドになったかの様相を見せております。同窓生の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

「俺んこの会社には、後輩がちつとも来えへんがや、一体どうなつとるんだ。」とお嘆きの方もあるかと思えます。四・五年前には、「二人に一人は上場企業」と言われた時期もありましたが、バブル経済崩壊以後は、一斉にリストラ・人員削減の嵐に見舞われております。

数字的に見ても、一九九四年は求人票の受付が、日計推移まで比例して一九九一年の半分となっております。「今迄は提出しても応募者が期待できないので出さなかつた」新規参入も含めての数字ですから、実態はさらに悪いと言えましょう。

「資料請求しても応じてもらえない」女子学生・下宿生。「ビルの六階で開催されている合同企業展の入場希望者の列が一階の玄関まで続いている」勿論、参加者にハワイ旅行の抽選もなければ、テレカももらえない。



学 科	経済学科	商学科	英米語学科	中国語学科	合 計
94年3月卒業生数	476	324	150	56	1006
就職希望登録者数(A)	424	280	118	50	872
就職決定者数(B)	422	280	111	49	862
就職決定率 A/B	99.5	100	94.1	98.0	98.9



「会社説明会の参加希望者が多過ぎて予約が取れない。」
「説明会に参加していない者は入社試験を受けられない。」
「二次面接で最終だ」と言われていたのに、「二次合格通知に、「最終試験の日は後日お知らせします」と書いてあった。」
「面接で聞かれたのは、「当社の社長の名前を知っていますか」だけだった。」(勿論、暗記してあった。)等々、学生達の悲鳴に近い報告が、就職課に寄せられています。

在学生に取って、「一番辛いことが、「先輩の居る会社就職できない」ことです。

OB就職先一覽を見て、受験企業をリストアップし、OB訪問をして、企業の説明を受け、励まされて受験しても不合格になるケースが増えています。

先輩方の活躍で、企業のイメージ・レベルが上昇して難しくなってしまったばかりではなく、採用ワクの減少・希望者の増大がこの現象を作っているようです。又、年々強くなる一方の、学生達の地元志向が、全国に支店・営業所網を持つ企業へのチャレンジを敬遠させてしま

まっています。

例えば、金融業界を希望している者の、信用金庫・農業協同組合への進出は飛び抜けて増加しています。

一方、着実に就職活動をしてきた者は、希望通りの採用内定を獲得しており、内定報告者も確実に増えております。却って、複数内定の辞退をどうしたら良いのか相談に来る、羨ましい学生も少なくありません。

しかし、学生の就職活動は、卒業間際迄延々と続けられるでしょうし、来年度・再来年度の状況も、大きく好転するとは思われません。

同窓生諸兄の御援助・採用情報の提供を、お願い致します。また、同窓会から発刊される、充実した「同窓会名簿」によってOBへの距離が身近なものとなり、後輩が、色々ご指導を仰ぎにお訪ねすることとなると思っておりますので、合わせてよろしくお願ひ致します。



広告の世界に生きる

●一九九二年

今村 健一

業界という華やかな世界に憧れて、広告業界を自分の職業として選び、運よく新東通信という広告会社に、入社し、あつという間に二年が経過しました。

入社した一年目は、社会人としての一般常識から今まで聞いたこともないような広告用語(私の場合、住宅関係の部署にいる為住宅関係の用語など)など、大した知識もなく初めてとびこんだこの世界は何を見ても新鮮でした。2年目になると少しずつ周りも見えてきてそれなりに知識を得て、広告の世界が少し分かります。しかし分り始めるとこの業界の良い面、悪い面も見えてきます。それを自分の中でどういう風に消化し、取り入れていくか、切り捨てていくかによって、仕事への取組みも変わってくるのではないのでしょうか。私も今年で3年目になり自分なりの仕事ができるようになりましたが、まだまだ一人前とはいえません。今年からが本当の勝負ではないかと思ひます。